

キリストの
最後の教え

T. Ernest Wilson

The Farewell Ministry Of Christ.

キリストの最後の教え

—ヨハネの福音書十三〜十七章—

T・アーネスト・ウィルソン

目次

まえがき

序文

第一章 上の広間

第二章 ヨハネの福音書十三〜十七章の分析

第三章 教えのための準備（ヨハネ十三章一〜三五節）

三人の人物と三つの状態

三つの行動のたとえ

第四章 食卓での質問（ヨハネ十三章三六〜十四章三二節）

ペテロの質問と答えにおける三重の啓示

トマスの質問と父への道

ピリポの質問

一

六

十三

十七

二十

二六

三四

三七

四二

四七

伝統主義者ユダの質問

第五章 ゲツセマネへの途上で（ヨハネ十五、十六）

キリストとの結合

互いとの結合

この世の憎しみ

第六章 金の香壇（ヨハネ十六章）

この世におけるあかしに対する迫害

世に対する聖霊の使命

しばらくすると

イエスの名による祈り

キリストの生涯と働きについての四つのまとめ

弟子たちのキリストを信じる信仰の宣言

平安を与える最後の祝福

第七章 聖所の内側―御民のための主のとりなしの祈り―（ヨハネ十七章）

主はヨハネの福音書十七章において祭司として働いておられるか

五四

六〇

六一

七二

七四

七九

八十

八二

八八

九八

百

百一

百三

百六

百八

ヨハネの福音書十七章についての解説者たちによる論評

百九

主の祈りのあらまし

百十一

まえがき

これは、一九七三年二月二六～三一日にマドラスで開かれた「全インド諸集会の働き人による学び会」で学んだ一連の学びの記録です。インド中から、二百人以上のみことばの奉仕者と開拓伝道者が集まり、みことばを学び、互いに励ましを受けました。このとき、主が御臨在され、豊かな祝福と力が与えられました。

この学びは、語られたとおりに、速記によって記録され、変更や編集をすることなく、ボンベイのパン・ナガールにある福音図書サービスから出版されました。

この出版の労を執ってくださいました、The Gospel Stewardの共同編集者ユースタス・サミユエル兄、The Gospel Fellowship Trust of IndiaのT・G・サミュエル兄の御厚情と御好意と御愛労に感謝しております。

数多くの友人から、この学びを編集し、加筆し、「キリストの最後の教え」という題で再版するようにという勧めを受けました。

年月を経るにつれ、ヨハネの福音書十三～十七章は極めて重要な箇所である、というこ

とをますます痛感するようになりました。これらの章は、キリストの教え、キリスト信仰そのものの中心であり、核です。

この新版の出版に当たり、助けと励ましを与えてくださったエリー・ロワゾー兄とマリ・ロワゾー姉に深く感謝します。

T・アーネスト・ウイルソン

ニュージャージー州 シーガートにて

一九八〇年八月

序文

ヨハネの福音書の中心部分である十三〜十七章は、聖書の中で最も重要な部分の一つです。これは、キリストが、ゲツセマネの園と十字架に向かう前に、弟子たちにお与えになった最後の教えです。この十三〜十七章において、キリストが、キリスト信仰における七つの重要な教理のあらましを語っておられます。後の書簡などで、これらの教理は、聖霊の靈感を受けたヨハネ、ペテロ、パウロなど使徒たちによって、詳細に、また、明確に解説されています。ヨハネの福音書のこの箇所では、教えの芽生えと根源を見ることができ、後の書簡などでは、その完全な開花と実を見ることが出来ます。聖霊があらゆることを思い起こさせ、すべての真理に導き入れることを、主は私たちに約束してくださいました。このことは重要な教理の書簡に見ることが出来ます。

ヨハネの福音書を注意深く読むと、三つの区分と、「まえがき」と「あとがき」があることがわかります。

一章一節～十八節は、「まえがき」であり、ことば、また父のひとり子と呼ばれる方の神性、人間性、創造の御力について、驚嘆すべき解説がなされています。

一章十九節～十二章五十節は、キリストの公けの働きの記録です。ここには、「しるし」と呼ばれる七つの奇蹟と、それらのしるしに関連した説明や解説が数多くあります。この区分において、私たちの主は預言者です。

十三章～十七章では、キリストは弟子たちを上との広間に連れて行かれます。これは言うなればこういうことです。主は、この世を後にされ、ご自分の心を開いて、弟子たちにキリスト信仰の重要な根本的真理を示され、それは十七章の厳かなとりなしの祈りで終わっている、ということでした。ここでは、主は祭司です。

十八章～二十章は、キリストのゲツセマネにおける苦しみ、逮捕、裁判、十字架の記録です。この区分では、主は九回王と呼ばれています。主を十字架につけた人々の嘲りの中で、主はユダヤ人の王と呼ばれました。

このように、ヨハネの福音書において、主は、預言者であり、祭司であり、王です。

二二一章は、「あとがき」、またはエピローグであり、この福音書と使徒の働きとを結びつけ